

【参考資料】

障害のある学生への授業環境整備において 「想定される課題」と「対応例」

2020年5月27日

はじめに

ミライロでは、2020年3月に障害のある当事者(学生に限らない)を対象に新型コロナウイルスの影響について実態調査を行いました。実態調査から、障害のある当事者が新型コロナウイルス流行に伴い困った経験やテレワーク等のオンライン利用において課題を感じていることが判明しました。

また今回の大学向けのアンケートでは、オンライン授業の導入により、障害のある学生への対応について、すべての大学で「課題を感じている」または「課題を把握できていない」という結果になりました。

そこで、本資料では、障害のある当事者向けのアンケートから抽出された課題を参考にして、大学において想定される課題とその課題に対する対応について、次ページ以降に障害種別に分けて、取りまとめました。

今後は、オンライン授業導入における課題の解決だけでなく、新型コロナウイルス終息後の大学生活を視野に入れて、対応を考えていくことが求められます。

本資料はその際の参考にしていただければ幸いです。

まずは、障害のある学生と向き合い、個々のニーズを把握することからはじめていくことが大切だと私たちは考えています。もし私どもにお手伝いできることがございましたらお声がけください。

最後になりましたが、このたびはアンケートへのご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

ミライロ スタッフ一同

肢体不自由

新型コロナウイルスの流行に伴い困った経験 (一例)

- ・ 消毒液の置かれている場所に車いすでは届かない
- ・ 車いす利用時、健常者よりも低い位置にいるため
咳や会話の飛沫が降ってくる
- ・ 車いすのハンドリムを触るため消毒してもすぐ手が汚れる
- ・ 手が不自由でマスクが外れた時に自分で着用できない

オンライン授業時に想定される課題 (一例)

- ・ タイピングが遅いためメモを取りづらい
- ・ 首から下の麻痺があるため、メモを取ることが大変
- ・ 大きな声が出しづらいため、相手に届きづらい
- ・ パソコン越しでは機能障害による制約を理解してもらいづらい

- ・ 消毒液の配置場所(地面から70cm程度の高さ)、話す際の配慮など日頃からできることもある
- ・ 相談窓口の設置や個々のニーズを確認して、できることから実践、改善に向けた取り組みを継続することが望ましい
- ・ オンライン授業時、やり取りが発生する場合、音声もしくはチャットのように、選択肢を提供することが望ましい

聴覚障害

新型コロナウイルスの流行に伴い困った経験 (一例)

- ・ マスクをしている人が多く、口の形を読み取って会話をすることが難しい
- ・ マスク越しだと声が聞こえづらい
- ・ マスクを外して欲しいと言うと露骨に嫌な顔をされる
- ・ 電話が使えないため緊急時のコミュニケーションが不安

オンライン授業時に想定される課題 (一例)

- ・ 遠隔会議システムと音声認識アプリが併用できない
- ・ 音が悪くて聞こえない
- ・ 画像が荒くて口元が読み取れない
- ・ 複数の情報を同時にプロセスし、ストレスを感じている

- ・ マスクについてはどうしても外して欲しいのではなく、筆談やメールの選択肢や理解を求めている
- ・ オンライン授業時、事前の資料共有、利用システムや情報保障(手話や字幕)の方法を確認することが望ましい
※情報保障については利用システムによって対応が異なるため、ここでは詳細の記載は省略いたします。不明点があればご相談ください。
- ・ オンライン授業時、話者はゆっくり話すよう心掛け、話題が変わるときは区切る。また、その旨を伝えることが望ましい
- ・ オンライン授業時、話者はカメラをONにして表情が分かるライティングが望ましい

視覚障害

新型コロナウイルスの流行に伴い困った経験 (一例)

- ・ マスク越しの会話は聞き取りづらい
- ・ ものを触って確認することが多いので感染が心配
- ・ 以前は声をかけたら手引き等をしてくれる人が多かったが最近では警戒されていると感じる

オンライン授業時に想定される課題 (一例)

- ・ 自宅のパソコンでスクリーンリーダーや点字ディスプレイが使えない
- ・ 自宅のパソコンでは拡大表示ができずモニターが見えない
- ・ 視覚に頼らざるを得ない情報がある時に周囲のサポートを受けられない
- ・ 授業に使うためのソフトが画面読み上げソフトに対応していない

- ・ 話し方の工夫や視覚障害者に気づいた時の声掛けの配慮が必要
- ・ オンライン授業時、Webシステムや履修登録などを行うWebページが音声読み上げソフトに対応していることが望ましい
- ・ オンライン授業時、必要に応じて使用する資料や講義内容などを事前に共有しておくことが望ましい
- ・ 対面授業が再開した際に、視覚補助具や点字盤などの情報保障ツールの持込許可といった対応を検討することが望ましい

精神障害／発達障害

新型コロナウイルスの流行に伴い困った経験 (一例)

- ・ どの情報が正しいのかわからずパニックになる(精神)
- ・ 不安を煽る報道に疲れて、ストレスで体力の消耗が激しい

オンライン授業時に想定される課題 (一例)

- ・ 1人で自宅にいると集中できない(発達)
- ・ 部屋が散らかっているため少し恥ずかしい(発達)

- ・ 外見では分からない不自由さがあると知る
- ・ 集中力の継続や体調の変動にも配慮するため、オンライン授業においてはライブ配信だけでなく、オンデマンド形式も用意できると望ましい
- ・ 情報の錯そうによる不安を軽減するため、大学側から新型コロナウイルスや学内の正しい情報の提供や、学生が抱いた疑問や不安を解消するため、問い合わせ窓口を明確にしておくことが望ましい

お問い合わせ先／ミライロでのお取組み

本資料に関して、ご質問やご相談がございましたら、
下記までお気軽にご連絡くださいませ。

【お問い合わせ先】 株式会社ミライロ UD推進担当 山内

TEL

06-6195-7853

FAX

06-6195-7854

MAIL

kei.yamauchi@mirairo.co.jp

また、ミライロでは障害のある方への向き合い方を伝える研修や、バリアフリーの監修について、
障害当事者の目線からお取組みをしています。ご参考にいただければ幸いです。

オンライン研修



<https://www.mirairo.co.jp/lp/um/online>

導入実績



<https://www.mirairo.co.jp/works>

資料ダウンロード



<https://www.mirairo.co.jp/download>



大阪本社 : 大阪府大阪市淀川区西中島3-8-15 新大阪松島ビル8F
東京支社 : 東京都品川区東五反田5-26-5 ニッセイ五反田駅前ビル5F
福岡支店 : 福岡県福岡市中央区天神3-10-1 天神源氏ビル7F